

桜 さくら サクラ

八木千里（千葉市）

日 時：2013 年 4 月 14 日（日）13：00～15：00

参加者：大人 6 名 子ども 2 名 指導員 13 名 計 21 名

担当指導員：盛一昭代 八木千里 佐野由輝

今年は例年に無い程の速さで春の植物が咲き、サクラも3月下旬には満開を迎えてしまいました。4月の観察会当日はソメイヨシノなど一重のサクラは終わっていましたが、八重ザクラと枝垂れザクラが見事に咲いていました。花見客もまばらで参加者も少人数でしたが、その分丁寧に観察出来ました。

コースは市町村の森からお花見広場、菖蒲田へ下り冒険広場の方から登って東屋へと進みました。サクラは昔から人々に親しまれ暮らしにも大いに関わってきました。万葉集には圧倒的にウメの歌が多いですが、サクラが親しまれていなかったわけではなく、中国から入ってきたウメが珍しかった貴族がこぞって庭に植えて歌を読んだからで、その後一般人も歌を作り、花と云えばサクラをさすようになりました。市町村の森では葉桜になったヤマザクラ、ソメイヨシノ、オオシマザクラの観察をしました。蜜腺の位置、葉の色、樹形などの違いをじっくり観察して皆さん覚えられました。盛一さんがクレープ状の桜餅と饅頭状の道明寺を持参され、どちらを食べていたか？ 参加者と指導員の皆で指さしすると、出身地（関東と関西）で見事に分かれました。

市町村の森を抜けると一本のサクラがあり、花の中を見ると葉化した2本の雌しべがあったので、これが普賢象だと分かりました。沢山の花びらが風に舞い、「花びらが落ちる前にキャッチすると幸せになれるよ」と子どもに教わり、一緒に追いかけてました。八重ザクラは花が出来る過程で何らかのホルモンの影響で、雄しべが花びらに変わったものです。花卉が5枚を一重、7～10枚を半八重、11～60枚を八重、60枚以上を菊咲きといいます。

展望台に行く手前に昭和の森のサクラの開花指標になっているソメイヨシノがあり、桜前線の説明をしました。そしてその隣に御車返のサクラが！オオシマザクラでしたが、一重の花と半八重の花が同じ木に咲いていて、まさに御車返ザクラでした。

お花見広場あたりに八重ザクラと枝垂れザクラが咲いていました。八重ザクラで色見本を使って桜色を探してみました。色見本を枝の花にかざしてみると、ラベンダーに近かったのは驚きでした。八重の花びらは肌色に似ていて、一重のサクラの花びらと違い、桜色はありませんでした。このサクラは濃いピンク色なので、関山のようなようです。次に枝垂れザクラの観察をしました。何故垂れるかは幾つかの説がありますが、観察した結果、枝が上に伸びようとして、途中から垂れているように見えた人が多かったようです。菖蒲田に下りてサクラが田仕事と深い関係があるのを佐野さんが持参された素晴らしい写真付の本で説明しました。サクラは農業開始の指標とされた場合もあり、各地に田植え桜、種まき桜と呼ばれる木があります。農事暦には、春は桜やコブシなどで季節に合った植物が描かれています。

最後にウワミズザクラを見て、初めて見た方はこれもサクラ？ と驚いていました。後半の方では、皆さん蜜腺を見たり、葉の形などを観て、八重ザクラの親を推理出来る様になり、よりサクラと親しくなれたようです。参加者の感想：①花の構造が良く分かった。②サクラを詳しく観たことで他の植物にも興味がわいた。③花以外で区別出来ることを知った。



関東風桜餅と関西風道明寺桜餅